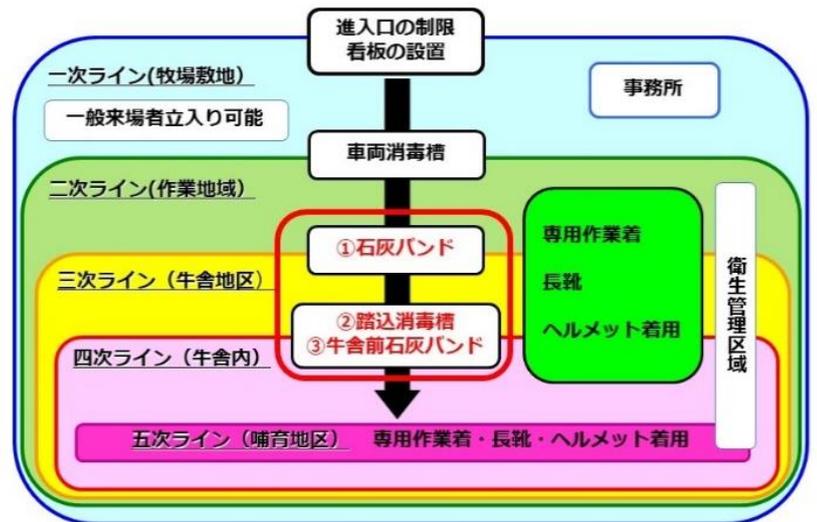


執筆担当	所在地	畜種	キーワード
岩手牧場 衛生課	岩手県 盛岡市	乳用牛	牛舎等への入退場、手指消毒、踏込消毒、石灰バンド、消毒剤使用時の工夫

家畜改良センター岩手牧場の防疫体制について（牛舎地区編）

岩手牧場では、家畜の病気の元となる病原体を「持ち込まない」「持ち出さない」ために様々な防疫対策を実施しています。前回、[NLBC 家畜衛生通信第 15 号](#)（←クリックすると第 15 号へ移動します。）で二次ラインより中（当場の飼養衛生管理区域内）に入場する来場者及び車両の入退場の手順を紹介しました。今回は三次ライン、四次ライン（牛舎地区、右図赤枠部）の防疫体制を紹介します。



① 三次ライン入口の石灰バンドについて

主に内部が採草地である二次ラインと牛舎地区である三次ラインの境界に石灰バンド（石灰帯）を設置しています。石灰バンドに使用される消石灰は一般細菌、ウイルスに有効で家畜衛生分野において広範に用いられています。当场ではただ単に消石灰を散布するだけでなく、消石灰の濃度やバンドの長さに留意しています。消石灰の濃度は $0.5\text{kg}/\text{m}^2$ としており、床面が白くなるように十分に散布しています。バンドの長さは大型車両のタイヤが 2 周できる長さ（約 8m）を確保しています。さらに消石灰の流出防止としてバンドの両端にコンクリートで段差を付けています。少なくとも週に 1 回は消石灰を散布し、常に効果の高い状態を維持しています。



境界に設置している石灰バンド

（点線部分に消石灰の流出防止の為に段差を付けている）

② 四次ライン入口の踏込消毒槽について

各牛舎内は四次ライン内となり、牛舎入口に手指消毒及び踏込消毒槽を設置しています。手指消毒には消毒用アルコール、踏込消毒槽にはpHに影響を与えない消毒薬（当场ではオルソ剤）を採用しています。牛舎内では牛の敷料に消石灰（アルカリ性）を混ぜたものを使用しているため、中和され効果が無効化する複合次亜塩素酸系消毒薬（酸性）は使用していません。飼養衛生管理基準の趣旨を踏まえ、牛舎に入る時だけでなく、出る時の手指消毒・踏込消毒も徹底しています。



踏込消毒槽と蓋の持ち手に配置した手指消毒剤（矢印）

③ 牛舎前石灰バンドについて

牛舎の更褥作業で使用するホイルローダーや給餌機などが病原体を牛舎内に持ち込まない、牛舎外に持ち出さないようにするため、各牛舎前のエプロンに石灰バンドを設置しています（約4m幅）。頻度は月に1回で、広範囲に効率よく散布できるように自走式の石灰散布機（用途により様々なタイプ・価格のものが販売されているようです。）を使用しています。以前は人力で時間をかけて散布を行っていましたが、散布機を使用することにより作業員1名で写真の牛舎片側エプロンを3分ほどで作業できるようになりました。



牛舎前のエプロンに石灰を散布している様子



牛舎前に設置した石灰バンド

以上